

## 責任ある消費者の消費意志決定と消費行動に関する構造分析

### ～行動理論モデルを用いたデータ分析～

豊田尚吾（大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所）

#### 要旨

地球環境問題をはじめとして、社会の維持可能性に対する懸念が高まっている中、欧州などで一般的な認知が高まりつつある、責任ある消費（倫理的消費）を意識し、実践する消費者の、意志決定と行動に関する構造分析を行った。

責任ある消費（倫理的消費）について、その定義を行い、アンケート調査のデータによる事実確認を行った。関心は高いにもかかわらず、実際の行動にはなかなか至っていないという問題点を発見した上で、態度形成と実際の行動の関係を構造的に把握することの必要性を主張した。

構造的把握の方法として、既存の「計画的行動理論モデル」、「社会配慮行動の 2 段階モデル」、「社会配慮行動の二重動機モデル」を当該分野に活用することを試みた。実際にデータ収集を行い、構造方程式モデルを用いて実証分析を行った。

結果として、モデルとデータの、一定程度の適合性を確認し、責任ある消費（倫理的消費）がこのようなモデルでの分析の対象となりうることを明らかにした。そして実際の係数の考察を行い、各財によって、特徴が見られる一方で、極端な差異も見られないことから、責任ある消費（倫理的消費）が一つのカテゴリーとして分析対象になりうるのではないかと結論に至った。

キーワード：消費 社会的責任

JEL 分類コード：D12,D19,Q59